

都筑区 まちかどホットライン

10/27 中川中学校に夜間照明と防災灯が設置されました！

「学校施設への夜間照明設置」は、我が公明党・横浜市議団で推進している「公共施設を有効に使用できる取組み」です。私自身も令和5年9月の一般質問からこの2年間、幾度も質疑と調整を重ねてまいりました。

夜間照明は、夜間の部活やクラブ活動だけでなく、地域の皆様から「都筑区は、緑豊かで嬉しい反面、夜は暗くて怖い」「明かりが欲しい」というお声への防犯対策、夏祭りなどの地域行事、消防団の訓練場など防災の観点からも有効と考えます。その設置率は、静岡市や広島市では90%を超えている一方で、本市は5%ほどで、都筑区で30校ある小中学校の中、初の1校目の設置ですが、**遂に令和7年10月27日に点灯を実現することができました！**団の先輩方、にぎわいスポーツ文化局の皆様、中川中学校の諸先生方、地域の自治町内会の皆様、酷暑の中でも工事を間に合わせて下さった技術者や関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



横浜市議員
市来 えみこ
【都筑区選出】

明るい未来への一歩

産後ケア事業をより利用しやすい制度へ！
受託事業者への支援の強化を！

市来 栄美子 委員
公明党 都筑区
本年、令和7年第3回市会定例会にて実施された令和6年度決算特別委員会の局別審査での質疑：10月17日「こども青少年局」へ登壇した様子

本市が提供する産後ケア事業には、3種類（デイケア、ショートステイ、訪問型）があります。前者2つは面接を通す必要がありますが、「訪問型」は、面接なく専門職である助産師から自宅でケアを受けられる産後母子ケア事業です。産後の母親が安心して育児を行えるように支援する取組は重要と考え、私自身、令和5年第3回定例会の初めての一般質問において、実施施設の拡充や利用料の減免について要望し、市長からは、「**訪問型の利用料を4,000円から1,500円に引き下げたいと考えています。年内には実施します。**」とのご答弁をいただきました。

その年の12月から訪問型の利用料の引き下げが実現され、令和6年度の利用人数は、5年度と比較して、**約1.5倍の利用につながり**評価しています。一方で、訪問型以外のデイケア、ショートステイについても、面接を通してではなく、**誰もが利用できるよう申請方法をデジタル化する**（将来的にはパマトコ上での申請が出来るように）など、利用者の利便性を高めていくべき、と要望しました。

さらに、事業を利用する人数が上がっている一方で、それを支える事業者の委託費用を含めた支援が必要です。人件費の上昇、近年の物価高騰の中、特に、助産所については、経営体制も大小様々であり、ショートステイ等の夜間2人体制への対応を含めた体制を組むことについても大変な思いをされています。そこで、事業自体を安定的に実施するため、**事業を担う助産所や産科医療機関をしっかりと支援すべきであり、「産後母子ケア受託事業者への支援を強化すべき!」**と訴えました。

保育料の多子軽減へ！
上のお子様と離れた第3子へも減免を！

ある保護者の方から「上の子が小学校3年生へ進級するために、第3子のお子様が多子軽減の対象から外れてしまう、改善してほしい」とのご要望がありました。現行の制度では「保育園・幼稚園に複数お子さんが通われている場合は減免の対象となるのですが、上のお子さんが保育年齢ではないため、第3子でありながら減免とならない」となっています。

公明党からも過去に「実際のきょうだいの人数に合わせた軽減になっていない」と指摘した様に、**きょうだいの年齢差によって軽減の対象外になることは不公平感**があります。東京都では全面無償化が実現し、川崎市でも昨年無償化している動きもあります。一方で、本市では、100億円を超える追加費用が発生すると報じられ、独自の拡充が難しいとは思いますが、都市間によって、保育料負担の格差が生じていることは大きな課題だと感じるため、**国への支援も要請しながら、多子軽減の拡充と、より一層の子育て世帯の負担軽減を!**要望しました。

こども青少年局
での質疑①

こども青少年局
での質疑②



X(Twitter)



Instagram

【E-mail】ichiki.emiko.yokohama@gmail.com
【ホームページ】http://ichikiemiko.jp

市来えみこ政務活動事務所▶代表：市来えみこ ☎224-0053 横浜市中区中川中央1-22-5 #402号室

民衆の声
ボイス

No.113

公明党 横浜市会ニュース

VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL671-3023 FAX681-20

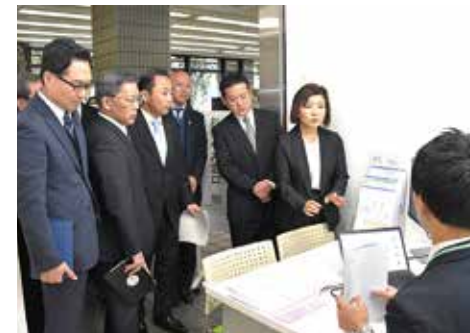
人生100年時代に 安心をお届け

公明党横浜市議団が提案し、推進してきた“安心 をお届けする”施策が、カタチになりました！
2040年には、横浜市内の約3分の1が高齢夫婦世帯、または高齢単独世帯になることが見込まれています。

「お悔やみ窓口」の全区設置がカタチに！

お亡くなりになった方に伴う煩雑な手続きの負担軽減を図るために「お悔やみ窓口」をモデル区（鶴見区・瀬谷区）に設置し、各種申請書の整理、作成支援、窓口案内などを実施してきました。

利用者の98.9%から「利用してよかった」との好評な結果を受けて、10月と12月に、全区役所に設置されます。事前予約制で、専門スタッフが丁寧に対応します。また分かりやすい「お悔やみハンドブック」もご活用ください。



※〔10月設置〕神奈川区、中区、港南区、磯子区、金沢区、緑区、青葉区、戸塚区
〔12月設置〕西区、南区、保土ヶ谷区、旭区、港北区、都筑区、栄区、泉区

◀提案で設置されたモデル
窓口を訪問(R6年2月)
右：お悔やみハンドブック

詳しくは
こちら



尊厳ある最期を「情報登録事業」がスタート！

身寄りのない高齢者などへの
支援を開始！

希望する65歳以上の高齢者を対象に「情報登録事業」を開始します。(R7年11月下旬)

孤独死などの万が一に備え、身寄りのない高齢者などが安心して暮らせるよう、緊急連絡先や遺言の有無、エンディングノートの保管場所などを事前に登録できる制度です。

登録情報は、病院や警察、消防などの迅速な対応につながります。スマートフォン等での登録を基本としながら、全区に「入力支援窓口」を新たに設置します。(R7年11月下旬)

「終活」に関する相談窓口を
設置します！

また、将来への不安や悩みを相談する対面、電話対応が可能な「終活相談窓口」も、市社会福祉協議会と各区1か所程度設置します。(R7年11月下旬)

